

らい麦

☆ライ太郎

- ・アブラナ科根こぶ病菌の菌密度減少効果がある
- ・低温条件下でも発芽ができ、初期生育が旺盛
- ・キタネコブセンチュウに対して高い抑制効果がある

播種量：8～10kg/10a すき込み期：播種後60日前後

播種期：3～5月

180～
250



10～15℃ 播種後10日目
左：ライ太郎
右：他品種

★R-007(ウィーラー)

- ・春播きでは穂が出にくく、種落ちの心配がない
- ・高温期に生育が停滞し、梅雨明け頃から倒伏し圃場を覆う
- ・倒伏後、小型トラクターでもすき込み可能！

播種量：10kg/10a

120～
140

播種期：4月～5月中旬

すき込み期：倒伏後、適宜

5月播き
→7月下旬の様子



カバークロップとして利用可能

エンバク

ヘイオーツ (アウエナストリゴサ)

- ・アブラナ科根こぶ病菌の菌密度減少効果がある
- ・キタネグサレセンチュウに対して高い抑制効果
- ・生育が早く、60日栽培で堆肥2t分相当の有機物補給が可能

播種量：10～15kg/10a

播種期：3～5月 すき込み期：播種後60日前後 (草丈80cm～出穂始め)

100～
120

※すきこみが遅れると落下子実の発芽のおそれがあります

※アブラナ科野菜の黒斑細菌病が発生する圃場では
耐性のあるらい麦「R-007」をご利用ください。

根こぶ対策のすゝめ

- フルスルファミド剤を使用している場合には効果が期待できない
- 菌が活性化する時期に栽培する必要あり 菌の活性適温：20～25℃
(豊橋平均気温) 5月下旬：20.3℃ 6月上旬：21.0℃ 6月中旬：22.3℃

ヘアリーベッチ

- ・根粒菌によって空中窒素を土壤に固定する
- ・ほふく性とアレロパシー効果
- ・水はけの良い土壤を好む

- 肥料成分の有効活用
- 雑草抑制効果
- 排水対策の実施

播種量：3～5kg/10a すき込み期：開花前後(草丈30～40cm程度)

播種期：2月下旬～4月上旬 ※草丈40cmでの窒素集積量は約7kg/10a

30～50

品種選定ポイント

早生品種
雑草に負けない
初期生育！

晩生品種
長期の栽培が可能

～早晚性の違い～

早 まめ助、ナモイ → 藤えもん → 寒太郎 **晩**

～耐湿性の違い～

(基本的に水はけの良い圃場を好む...)

強 寒太郎 → 藤えもん → まめ助、ナモイ

～すき込みの方法～

フレールモアなどで細断

→黄褐色に変色したらすき込む

すき込み後、3～4週間後に定植

※草丈40cm未満の場合にはロータリーでの直接すき込みも可能



カラシナ

タキイの緑肥・景観用作物より

アブラナ科の
辛味成分
(グルコシノレート)

細断・すき込み

酵素
(ミロシナーゼ)

加水分解

イソチオシアネート

市販の殺菌剤と
同様の作用

いぶし菜、黄花のちから、辛神

50～140

100～150

100～160

- ・土壌病原菌低減効果が期待できる
(ジャガイモ黒あざ病、トマト青枯病
ハウレンソウ萎凋病、サツマイモネコブセンチュウなど)

播種期：2～3月 播種量：1～3kg/10a

すき込み期：着蕾期～開花始め

⚠️ アブラナ科根こぶ病発生圃場での使用は避ける

できるだけ細断→できるだけ早くすき込む
(土壤水分が多いとガス化が促進される)

露地：鎮圧でガスを留める
→3～4週間後に播種(定植)

ハウス：2週間程度ビニール被覆
→除去後、1～2週間後に播種(定植)